

活動報告書

報告者氏名： 木邑佳織 所属：京都市立桃陽総合支援学校 記録日：平成28年2月1日

【キーワード】入院している高校生への学習支援の取組

「病弱」「教科学習」「高校生支援・学習意欲の向上または維持・高校との連携」

【対象生徒の情報】

- ・学年 高校1年生（現在休学中）
- ・障害名 病弱
- ・障害と困難の内容
 - ・京都大学医学部附属病院には、本校の分教室（院内学級）が設置されている。しかし、小学部・中学部だけであるため、入院している高校生が学習する場がない。
 - ・学習したいが、病気治療や体調の変化のため、継続的に学習することが難しい。
 - ・病室での学習は一人であるため、周りの状況が分からず、学習意欲の維持や向上が難しい。
 - ・自主学習をしていて、分からないところがあった時に、教えてもらえるシステムがない。

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ・各自が持ち寄った学習内容が学べるよう自学自習の場を提供し、高校への復学をスムーズにする。
 - ・ボランティア事業と連携し、高校生の学びへの意欲を支援する。
 - ・他の高校生と交流し、同年代間の情報を交換する場にする。
 - ・高校と連携して、授業配信などを通して、高校生の学びの時間を多く設定できるようにする。
- ・実施期間 平成27年5月1日～平成28年3月
- ・実施者 木邑佳織・支援部担当教員・指導部担当教員
- ・実施者と対象生徒の関係 支援部専任（高校生支援担当）

【活動内容と対象生徒の変化】

桃陽総合支援学校は、京都市にある病弱総合支援学校である。学校は京都市桃陽病院に入院している小中学生が通う本校と京都市内の4つの病院（京都大学医学部附属病院・京都府立医科大学附属病院・国立病院機構京都医療センター・京都第二赤十字病院）内にある分教室と4つの病院以外に入院している小中学生のための訪問教育がある。

<対象生徒の事前の状況>

本生徒は、平成26年冬に入院し、分教室に通い、院内受験で希望の高校に合格した。高校入学を迎える4月以降も、長期に入院することがわかっていたため、学習支援ができないか、という声が生徒本人・保護者・担当医の中であがってきた。この願いの実現のため、昨年度から徐々に取り組み始めていた高校生への場の提供に向けて、学校と病院の間で話がもたれ、今年度支援を始めることになった。小中学部しかない桃陽総合支援学校で、高校生への指導は対象外であるため、高校生支援に関わる取組は、本校にいる支援部担当教員が主に行っている。

本生徒は、現在高校を休学中であるが、学習に対して大変意欲的で、体調に合わせて病室での学習もすすめている。学習時間は30分から1時間半である。しかし、自主学習をしていて分からないところがあっても質問する人がいなかったり、一人では学習意欲を維持することが難しかったりする。

活動の具体的内容

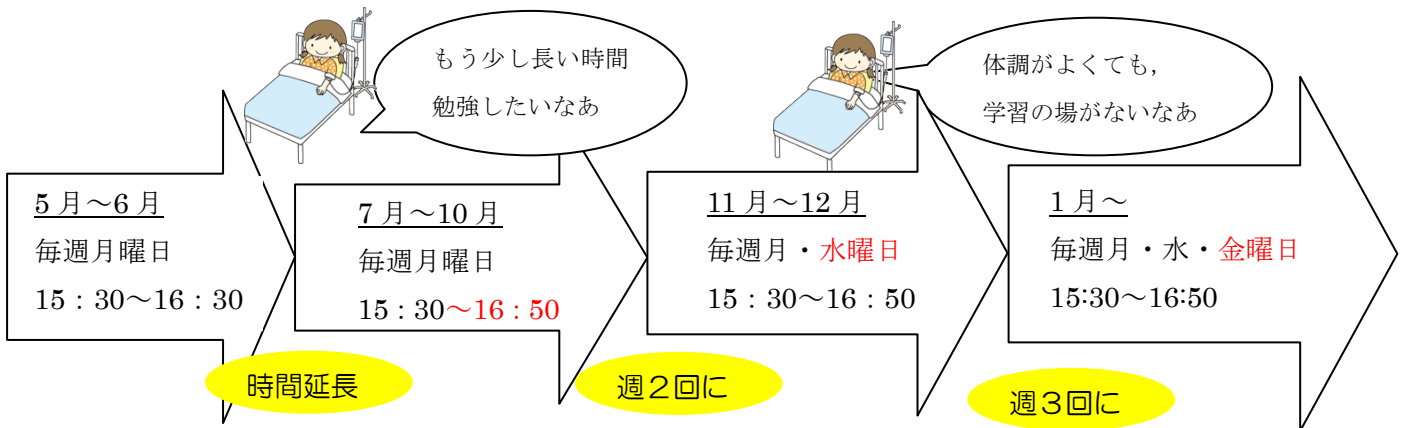
①場の設定

高校生への支援を始めるにあたり、病院と学校との話し合いが多くもたれた。学習の場があるということは、高校生が単に学習する機会だけでなく、病室から出て別の場所で学習することが、気持ちの切り替えになることなどの情報を共有できた。

そして、学習の場として当直室を毎週月曜日 1 時間（15：30～16：30）借りることができるようになった。3 つの学習机と一つの丸テーブルと教員用に机を用意してもらった。また、病室から学習の場への送迎は、保護者にしてもらえるようお願いした。

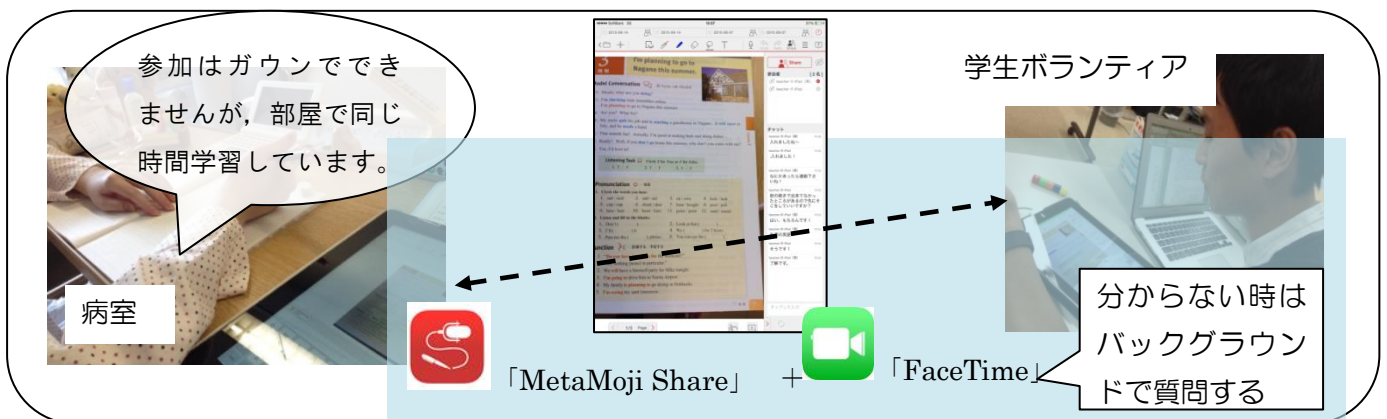
高校生支援を始めた当初から「体調のいい時には学習時間を長くしてほしい。」という声をあげていた。そこで、学習時間を 1 時間 20 分に延長した。

しかし、体調や治療が優先であるため、週 1 回では参加できない日が続き、何週間も参加できないこともある。病院との話し合いの結果、11 月に週 2 回、1 月から週 3 回の場の設定をして学習をしている。本生徒は、体調に合わせて、「30 分だけでも勉強したい。」と言って、学習に参加する日もあった。



②継続的な学習に向けて

本生徒は、夏ごろから手術に向けての治療がはじまり、学習の場に出てこれられなくなった。そんな時、毎回の出欠や学習内容を記述する「学習アンケート」に、「参加は*ガウンのためできませんが、部屋で同じ時間学習をしています。」という内容の記述があった。桃陽総合支援学校では、ガウンで分教室に登校できない小中学生に対してベッドサイド学習を実施しているが、高校生支援では、ベッドサイド学習は想定していない。学習の場とベッドサイドをつないで学習ができないか考えた。そこで、アプリ「MetaMoji Share」を使い、プリント共有して学習室にいるボランティアに見てもらおう。分からないところがある時には、その場で質問をするように取り組んだ。



*ガウンとは免疫機能の低下で学習できる体調であるが病室から出られない状況

分からないことがある時は、「MetaMoji Share」の文字チャットを使ってみたが、入力に時間がかかるので、「FaceTime」を使用した。しかし、「FaceTime」では自ら電話をかけることになる。抵抗はないか尋ねたが、「分からなかったら自分で（FaceTimeを）かけます。」と、言って、積極的に学習していた。

手術後で、体調が落ち着かず、身体的・精神的な不安をもち、落ち込むこともあった。しかし、4月のオリエンテーション時のアンケートには、「10分でも20分でも病室から出られない子のために…少しでもわからない所がなくなればいいかなと思います。ベッドサイド学習など」と書いていた。治療が長引くことは、本生徒自身も想定していたため、ICTで病室をつないでの学習は積極的に行えた。

③学習意欲を維持するために



アプリ「By Talk for School」の活用 ～個人端末を使って安心・安全なSNS～

【メンバー】生徒・教員・学生ボランティア

【主な内容】出欠の確認、学習の予定などの連絡・学習の復習

【事務連絡から体調の連絡へ】

支援をしている中で、学生ボランティアと教員の間で、限られた学習の時間であるが、もっと高校生の学習を支える有意義な時間にできないか、という話を何度かもった。その中で「せめて前もって分からないところや教えてもらいたい内容が、分かればいいのになあ。」という声が学生ボランティアから出てきた。同時に分教室の先生から出欠の確認がもっと簡単にできないか、という要請があった。そこで、6月からアプリ「By Talk for School」の使用を4名のグループ（先生2名、ボランティア1名、生徒1名）で始めた。

はじめのうちは、事務的な連絡だけであったが、徐々に体調についても交流できるようになってきた。学生ボランティアや担当の先生からの声かけなどで、生徒の気持ちが打ち解けてきた。

<「By Talk for School」のやりとり>

7月12日

2015-07-06 15:59

さん、こんにちは。今、高校生支援にきています。もし空いていれば、一度病室に伺いたいたのですが、いかがですか？

2015-07-06 16:40

児童生徒3

はい

2015-07-08 12:23

7月28日

07-28 14:45

児童生徒2

数学を少し進めています！明日から手術に向けて始まるので、勉強があまりできなくなりそうです...

さん、こんにちは。メッセージありがとうございます。^_^

8月2日

08-24 11:00

児童生徒2

返信遅くなって本当にすみません。クリーンが開けてガウン管理になりました！勉強はまったく進んでないです... 次の高校生支援のも行けません...

さん、お久しぶりです。

体調に関する話も！

(手術)

【同年代の高校生との交流へ】

現在は10名（先生6名，ボランティア2名，生徒2名）のグループになり，多様なやりとりが増えてきている。10月に，面識のない他病棟に入院している高校生が担当の仲介により，「By Talk for School」に入って交流が広がっていった。担当から「病室の窓から秋の景色は見えますか？」と尋ねると，「〇〇さんと同じで，建物しかみえないです。」と共感しあうやりとりがあった。その後，ボランティアが風景の写真をおくるなどして，会話が広がった。1日中病室（個室）にいる生徒にとって，学習の連絡を軸に交流をもてたことは，本生徒の心の変化をもたらしたと思われる。

【他病棟に入院している生徒とのやりとり】



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

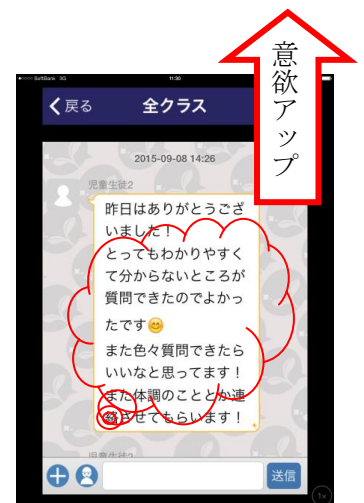
- ①週3回（11月までは週1回）の高校生支援の日を軸に，学習の場への参加や病室でICT機器を使っでの学習など治療や体調に合わせて自ら選択して，継続的な学習へとつながった。
- ②継続的な場の設定により，見通しをもって学習できてきた。
- ③同じ状況の生徒がいることを知り，学習意欲がわいたり，状況を共感できたりした。

・エビデンス（具体的数値など）

場の設定に関すること

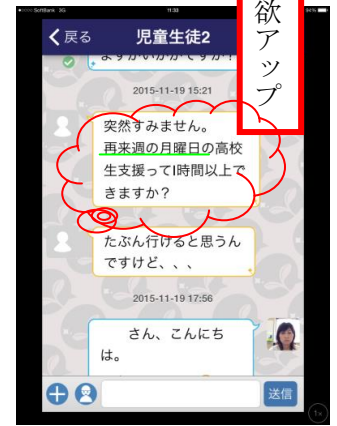
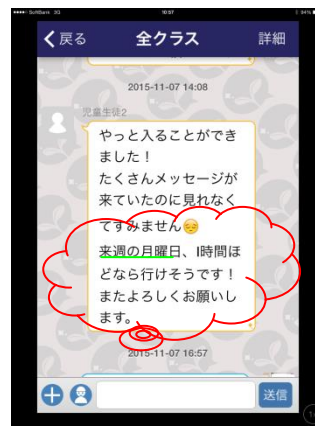
右の「MetaMoji share」をつないだ次の日のメッセージから，ICTの活用で病室で学習できたことが，本生徒の喜びとなったことが分かる。また，「分からないところが質問できてよかった。」など，自ら「FaceTime」を使って質問できたことが積極的な学習へと結びついた。

学生ボランティアの学習支援が本生徒の学習意欲の向上につながったことも分かる。



見通しをもった学習に関すること

(右のメッセージより) 体調の悪い日が続いていても、「来週の月曜日」「再来週」など、高校生支援の場があるということが、先の見通しをもって学習しようという意欲につながった。また、「1時間以上できますか?」というメッセージもあり、学習意欲があがったことも分かる。保護者の方も週3回になった時には、「行く場所が増えて、とてもうれしい。」と話していた。また、12月のアンケートでは「体調がいい時は、もう少し長めに学習できたらなあ。」「授業のように教えてくださいるので分かりやすい。」「わからなかったことが解決できるようになった。」と書いていて、この取組が学習の継続や意欲向上につながった。



他の高校生との交流に関すること

顔を合わせたことがなかった2人であったが、11月に「Tango」を使って、自己紹介をして初対面をした。12月には、初めて2人が学習室に来ることができ、お互いの出身地や高校の話をして交流を深めた。12月に実施したアンケートで、「高校生支援をきっかけに変化したことは?」の回答の中に「他の高校生と情報交換ができた。」とあった。また、Yさんのアンケートには「高校生支援は楽しいから元気になれる。」「雑談がおもしろくて元気になれる。」と、自由記述があった。同年代の生徒同士の交流が、学習意欲の向上だけでなく、入院生活の励みになっていると考えられる。



<他生徒との交流の様子>

【今後の見通し】

- ・復学に向けて、在籍高校と連絡・連携し、ICTを活用して本人と在籍高校の先生と話をする場をもつ。
- ・引き続き「By Talk for School」を使って、入院している高校生や学生ボランティアや本校の教員とのやりとりを通して情報共有・交流の場をもち、治療への励みや学習へのモチベーションを維持する。
- ・「コラボノート」の活用により、プリント共有をして、学習の場の設定のない日にも、分からないところは質問し、学生ボランティアに答えてもらうシステムを作っていく。また、在籍高校との「コラボノート」の共有による双方向のプリントを通じた学習をしていく。
- ・生徒が解説してほしい単元を効率よく学習できるようにする。「NHK 高校講座」の動画を組んだ時間割を紹介したり、学生ボランティアにミニ動画を撮ってもらい配信または録画で本人が見たりできるようにする。